

## シカ捕獲 わなの周りにエサを

### 近畿中国局 和歌山署が開発

九月三日付の高知新聞に、「シカ捕獲 新設置法で急増」くくりわな 和歌山森林管理署が開発の見出しで掲載。記事によると、生態記録や食べ残しの観察から、わなの周囲に餌をドーナツ状に置くもの（小林式誘引捕獲）との説明。この方法は、平成二九年度国有林野事業業務研究発表会において、近畿中国森林管理局職員が発表しています。

業務研究発表集（局全課等・全署等および事務所に配布）によると、シカは餌を食べる際、口元のすぐ横に前足を置く習性があり、餌の中心にわなを置けば捕獲が可能になると推測。その方法は、わなを設置（写真上）、わなの周囲に石を置く（写真中）この石の周りに餌（米ぬか）を置く（写真下）方法です。（写真提供は近畿中国局）

四国局でも、「くじやんと一号」や「くくりわな」によるシカ誘引捕獲対策を実施中。今後とも、他局や研究機関等の事例にも学び、シカ害対策等に生かしていきたいものです。



## 国有林野事業 業務研究発表会 4課題を発表

### 「二ホンシカが嫌う植物が残る」 って(II)



近年、二ホンシカ（以後、シカ）によるスギ・ヒノキの苗木や樹木、樹皮の食害などの被害が深刻化。このような中、林道沿い等の周辺の植物によりシカの生息数や被害が推測できる。シカが嫌いな植物（写真上 コシダ ウラボシ科）が優占している場所は、シカの密度が高い。逆に、好きな植物（写真下 サルトリイバラ ユリ科）が多く見られる場合は、シカの密度が低いと推測。



平成27年四万十署管内（上源見山国有林）「囲いわな設置周辺状況調査検討会」

### 編集後記

時候の挨拶も仲秋の候に。  
局庁舎近くのイチヨウの葉も秋の色。  
私たちも体調を整え、良い色に。

令和元年度 国有林野事業業務研究発表会が、一月二六日（火）林野庁において開催されます。四国森林管理局から森林技術・森林ふれあい・森林保全の三部門に次の四課題を発表します。

森林技術 ○「二回目の列状間伐を通じた列状間伐の普及に向けて」

高知中部署

主任森林整備官 齋藤 公平

局資源活用課

生産係長 水田 英司

○「冬下刈の普及を通じた作業負担の軽減・コスト削減に向けた取組について」

四万十署

楠山・中村森林事務所 係員 江嶋 健人

局森林整備課

森林育成係長 福山 敦之

森林 ○「中山間地ロケットノスハラシビエ」

ふれあい

ICTを活用して地域と共に鳥獣被害を防止！

四万十署

梶原森林事務所森林官 森田 晃喜

森林保全 ○「災害発生箇所におけるドローン活用効果・検証について」

局治山課

国有林治山係長

黒岩 玲子

局治山課

係員

吉元 崇紘

嶺北署

南小川治山事業所治山技術官

川口 慎弥